

リハビリニュース No.45

～肋骨骨折について～

肋骨骨折は、高頻度に見られる骨折の一つで、高齢者から若年者まで幅広い年齢層で見られます。肋骨は左右12対ありますが、骨折の好発部位は、第4～8肋骨です。また、完治するには約4～6週間とされています。



《受傷機転》

- ①転倒や打撲等、外力が直接肋骨に作用して、その部位が折れる場合
- ②スポーツ活動や長期間の咳こみ等による疲労骨折の場合

《症状》

- ①持続する胸部痛・背部痛・圧痛
- ②呼吸や動作時に痛みが増強
- ③骨折部位の腫脹
- ④内出血
- ⑤骨折部を軽く圧迫した時の軋轢音

《診断・鑑別方法》

- ①レントゲン検査
- ②叩打痛
- ③深呼吸時の肋骨部の痛み

《治療法》

1～数本の肋骨骨折では、2～3週の間「バストバンド」といわれるもので胸部を固定します。その他に、消炎鎮痛薬の内服、湿布の貼付などがあります。しかし、合併症を併発している場合は、外科手術が必要になることもあります。

《合併症》

①外傷性気胸

外傷などで外から空気が流入し、肺が縮んでしまうことによって、胸の痛みや苦悶感、息切れ、呼吸困難などの症状がみられます。

②血胸

胸のなかに血液がたまってしまふことで、胸の痛みや苦悶感、呼吸困難などの症状がみられます。

③腹腔内臓器損傷（肝臓や脾臓、腎臓等）

これらの臓器が損傷することによって、腹痛と共に貧血症状が現れ、大量出血ともなれば腹部膨満が起き、やがてショック状態に陥ります。

肋骨は当たりどころによって、簡単に折れてしまう骨と言われており、その折れた骨によって、胸部や腹部にある臓器の損傷を合併する可能性がある骨折です。よって、上記の症状がある場合は、迅速に医師の診察を受けることが必要です。また、バストバンドの装着を指導された場合は、自己判断に任せることなく、医師の指示に従うことが大切です。